

令和5年度 決算報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

* 千円未満四捨五入

(1) 経常収益は、前期より588万2千円減の2293万円でした。減少の要因は、前年度まで3年連続で受けていた日本財団の助成(令和4年度は881万円)がなくなったことです。一方、個人の方から大口の寄付をいただいたこと、「認知症110番」に対する協賛金を受領したことなどで、助成がなくなった分を一部補うことができました。

(2) 経常収益の主な内訳は

- ① 基本財産運用益 債券などの受取利息計711万5千円
 - ② 受取会費 毎日新聞社、東京放送、毎日放送の各賛助会員から計912万5千円
 - ③ 寄付金(継続寄付会員による寄付計143万8千円、個人の篤志家からの寄付200万円、朝日生命からの寄付53万円)計396万8千円
 - ④ 武蔵野市認知症相談の事業収益132万円
 - ⑤ 「認知症110番」協賛金 110万円
- となっています。

(3) 経常費用は事業費が2089万3千円、管理費が299万5千円の計2388万8千円で、前期比217万4千円減となりました。諸物価の値上がりに伴い賃借料などが大幅にアップした半面、常務理事が毎日新聞社からの出向となり役員報酬や退職慰労引当金が不要になったこと、順天堂大学への委託費を見直したことなどにより、差し引きして前年度より減少しました。主な経常費用(事業費と管理費合算)は諸謝金1032万1千円、賃借料541万7千円などです。

(4) これらの結果、経常収益から経常費用を差し引いた当期経常増減額は、評価損益等調整前で前期より370万8千円悪化し、95万8千円のマイナスとなりました。一方、評価損益等調整後でみると前期比1495万円改善し、613万6千円のプラスでした。

(5) 経常外収益、及び経常外費用はともにありませんでした。

(6) 当期末の資産は、流動資産が前期比555万6千円減の2544万6千円となっています。一方、固定資産は基本財産が前期比で711万円増の5億3811万2千円となりました。固定資産として、特定資産「電話相談事業積立資産」を453万3千円上積みし、2157万2千円としました。資産合計は5億8944万9千円、負債合計は245万9千円で、この結果正味財産合計は前期比613万6千円増の5億8699万円となっています。